

前 文

ヨーロッパでは森林を保育資源として、子どもの主体的な遊びや学びを促すことを通じ、感性の豊かさや身心の健康・体力、創造性や社会性、豊かな人間性を育んでいく、森のようちえんの効果が広く認められています。我が国においても自然体験が子どもの成長に不可欠であるとの認識に立ち、中教審が「生きる力」を提唱しました。

森のようちえんの活動は、幼児期に子ども達の自ら成長する力を見守り、主体性を尊重します。豊かな発想、のびのびとした心と体、友だちを想いやること、生活それ自体の中で、社会性や自立を獲得することを目指しています。自ら学び自己を向上させ、獲得した能力を、社会に活かそうとする21世紀のグローバル社会において求められる人間像に繋がる一端が、幼い子ども時代から育まれているとすることができます。

森で多くの時間を過ごした子ども達はやがて成長し、森林や自然環境への関心の強い大人へととなっていき、自ら行動する持続的で健全な社会を次世代へつなぐ一人として多様な社会と連携し、自立的に動くことでしょう。

ドイツにおいては「国連持続可能な開発のための教育（ESD）」へ森のようちえんにおける教育プログラムの提案がされました。幼児期のESDにおける新たな試みであり、全国ネットワークを代表し日本からの情報提供もされました。そして国内において、長野県は信州型自然保育認定登録制度、鳥取県は独自の森のようちえん認証制度の創設を目指しています。こうした自治体の取り組みが少子化対策、子育て世代の定住促進に繋がることが期待できます。

森のようちえんの幼い子ども達に握られた小さな種は、その子の成長に伴い大きな樹へと成長するでしょう。その英知は、人が自ら巻き起こすであろう様々な障害を打ち破る。未来は希望に満ち、幼き日に心踊らせ、生き生き過ごした日々を次の世代に伝えるために、私たちはこの小さな命とともに今日も森へ足を運びます。

森のようちえん全国ネットワーク
運営委員長 内 田 幸 一

森のようちえん宣言

全ての子ども達にたっぷりの愛と自然とのふれあいを。

子育てを支え合い、喜びに満ちあふれた社会の実現を目指します。

子ども達よ、命の根っこを輝かそう。森で、海で、里で、この空の下で。

森のようちえん全国ネットワーク

2014年 11月 24日